

老健 ほっかいどう

一般社団法人北海道老人保健施設協議会

臨時
増刊号

2021年12月



第28回北海道老人保健施設大会 オンデマンド開催!

ピンチをチャンスに!

～困難を乗り越え、新たな繋がりへ～

CONTENTS

02 臨時増刊号
発刊にあたって

03 基調講演・
特別講演レポート

04 Pick Up!
分科会発表

05 誌上展示会

12 道老健TOPICS

臨時増刊号発刊にあたって



医療法人盟協会 介護老人保健施設アートライフ恵庭
事務局長 齊藤 英樹
北海道老人保健施設大会 事務局

ピンチはチャンスを実現できた大会

第28回北海道老人保健施設大会は11月1日～15日までの配信期間が終了しました。ご参加をいただきました100近くの会員施設の皆さまに、この場を借りて御礼申し上げます。分科会には、当初の予想を超える47もの一般演題が集まり、おかげさまで大盛況のうちに幕を閉じることができました。

本大会は北海道老人保健施設大会がはじまって以来、初となるオンデマンドを活用した形式となりました。2020年度はコロナ禍で本大会のほか総会や研修会の開催も断念しましたが、唯一、オンラインで開催したのが塚本容子先生を講師に迎えたリーダー研修です。この実績が自信につながり、今年度は事務連一同「何としても開催する」という強い思いのもと、本大会の開催に至りました。

会員同士が直接会って交流し、議論を交わす対面形式の大会の意

義深さは譲れないものがありますが、オンデマンド開催も悪いことばかりではありませんでした。これまでは遠方でなかなか参加機会がなかった会員施設に参加いただけたり、対面形式と違ってすべての分科会に参加できたメリットがあり、得たものは大きかったと感じています。何よりも、コロナ禍でもケアやリハビリに前向きに取り組む会員の皆さまの姿には、とても刺激を受けました。

また、2年連続で展示機会がなくなってしまった賛助会員の皆さまにはお詫びを申し上げるとともに、オンデマンド開催へのご理解とご協力を賜り、あらためて感謝申し上げます。

まさに、「ピンチをチャンスに！」のスローガンを体現できた大会でした。また来年、お会いしましょう！

第28回北海道老人保健施設大会

ピンチをチャンスに！

～困難を乗り越え、新たな繋がりへ～

特別講演

在宅医からみた 10年後・20年後のニッポン

生活を継続するケアが不可欠

首都圏に17カ所、沖縄に1カ所の在宅療養支援診療所を有し、76人の医師と約6400人の患者を支援する医療法人社団悠翔会。はじめに佐々木淳理事長は、緊急コールから往診に駆けつけ、診療するまでの同法人の往診態勢が救急搬送に匹敵する迅速さであるとともに、年間7000件を超える緊急往診が地域の6病院の救急搬送受入件数の約30%に相当すると説明しました。さらに、慢性期医療だけでなく肺炎等の感染症治療や輸血などの侵襲の高い治療、緩和ケアといった領域もカバーすることにより、入院患者数の削減に寄与していると解説。「入院コストも削減でき、患者さんのQOL向上にもつながる。在宅医療も実績を積み重ねれば、大都会の救急医療システムや救急病院の負担軽減にも貢献できる」と述べました。

続けて、今後ますます深刻化する少子高齢化と増大する社会保障費について解説するとともに、日本の高齢者医療の問題点を指摘。特

に、高齢者の救急搬送増加にともなう入院治療が介護度の悪化を招き、入退院を繰り返した末、病院で亡くなる悪循環を引き起こしている実態を取り上げました。軽症や中等症の75歳以上の高齢者が救急搬送されるケースが大半であるとのデータも示し、高齢者を支える世帯が弱体化していることや、「入院すれば安心」といった専門職の認識が背景にあると分析。「老健も含めた在宅支援施設には、多職種と連携し、しっかり食べて骨折や肺炎を防ぐ、入院させないケアが求められる」と強調しました。

同時に、「人と人とのつながりや生きがいの創出」も不可欠であると言及。「治療やケアはあくまで手段であり、大事なはその人が納得できる生活を継続できること。家族や地域のカも借りながら、その人の生活に関心を持って取り組んでほしい」と訴えました。



佐々木 淳 氏
(医療法人社団悠翔会 理事長)

基調講演

2021介護報酬改定が示す老健の目指す姿 ～老健の複合機能は医療介護連携の要～

積極的な対策でコロナ禍を乗り越えよう

東憲太郎会長は講演の前半で、まず新型コロナウイルス感染症に関連する情報を提供しました。全国老人保健施設協会から国への要望によってなされた主な対策として、老健で陽性者が出た場合の資金的援助や応援職員派遣体制の確立をはじめ、陽性患者の入院実現のために設けられた報酬上の特例的評価について紹介。老健におけるワクチン接種を促進するための財政支援が適用となったことにも触れ、送迎付きワクチン接種を行う自施設の例を示しながら、「積極的にワクチン接種を行ってほしい」と呼びかけました。

続けて、新型コロナウイルス感染症の影響について、2021年度は19年度と比べて老健全体の平均で入所稼働率が約2%ダウン、年間約1千万円の収入減となり、「ベッド回転率が高い在宅強化型以上の老健ほど、大きな打撃を受けている」と指摘。対策として、地域医療介護総合確保基金を活用し、手続きを簡素化した補助金支給の要望書を出していることを説明しました。



東 憲太郎 氏
(公益社団法人全国老人保健施設協会 会長)

次に、21年度の介護報酬改定について復習したうえで、科学的介護情報システム(LIFE)の経過措置を説明し、「多くの加算要件にLIFEが組み込まれているため、データを提出しないと経営的なマイナスは免れない。内容が不完全であってもまずは提出し、今後、レベルアップを図ってほしい」と強調しました。

また、認知症患者の残存能力を測る指標における問題も提起し、「LIFEで採用されている認知症の指標はBPSDの評価のみ。それよりも認知機能を評価することで、残存能力を測るべき」と繰り返し主張するとともに、全老健で提唱するICFステージングの有効性を説きました。

最後にコロナ禍での過酷な業務を労いながら、「さまざまな弊害があるが、明るい未来があると信じて頑張りましょう」とメッセージを送りました。

2021年11月1日～15日、
第28回北海道老人保健施設大会がオンデマンド形式で開催されました。
本大会の内容をあらためて振り返るとともに、
賛助会員企業をピックアップし、誌上展示会を開催します。

特別講演

『くちビルディング選手権』 コロナ禍の高齢者に笑いとフレイル予防を

“食べる力”で楽しくつながる

医師で一般社団法人グッドネイバースカンパニーの清水愛子代表理事は、老若男女が「食べる力」を使って楽しく本気で競い合う、世代を超えたスポーツ競技大会「くちビルディング選手権」について解説しました。この取り組みについて清水代表理事は、舌を滑らかに動かす機能を高める「黒ひげペロリ」、勢いよく口から種を飛ばす「飛ばしード」など、オーラルフレイル予防に特化したユニークな種目をチームで競うもので、2016年のスタート以来、全国86カ所で開催、約3000人が「くちビルダー」なる称号を獲得していると紹介。取り組む意義を、「ヘルスケアから、遊び心を意味するプレイフルケアへの転換」と位置づけ、「医師としては薬を処方することが健康へのアプローチとなるが、それだけでは健康なライフスタイルは担保できない。生活者一人ひとりが望む暮らしを実現するには、地域のつながりを処方

する必要があり、“楽しさ”が参加の動機付けになる」と述べました。また、スポーツ競技だからこそ、誰もが平等にアスリートとして競い合える、記録が残ることで継続的な参加を見込めるといったメリットを説明。さらに参加者にとってはオーラルフレイルの予防だけでなく社会参加促進となるほか、専門職も楽しみながらフレイルの知識が身に付く機会にもなるとし、「地域で早期にオーラルフレイル状態に気づき、適切な医療につなぐとともに、将来的には健康寿命の延伸にも貢献したい」と展望しました。

コロナ禍において同選手権は中止を余儀なくされているものの、オーラルフレイル予防を訴えるツールやオンライン等を駆使し、「まいにち、くちビル」として活動を継続。「北海道の皆さまも仲間になって、“まいにち、くちビル”を広げていきませんか」と呼びかけました。



清水 愛子 氏
(一般社団法人グッドネイバースカンパニー 代表理事)

Pick Up!

分科会発表

みんなで選ぶりハビリ ~『家にいる』を『生活できる』にするために~

社会福祉法人光寿会
介護老人保健施設ケアステーションひかり
理学療法士 原 萌美さん

取り組みの概要

ただ家に帰るだけではなく、家で1人でも生活できることが重要であると、通常のリハビリに加え、一人ひとりの課題を「洗濯」「掃除」「食事」「薬」「歩行」の5項目に分類し、実際の作業を取り入れた訓練を実施。1人暮らしに必要な訓練は何か、本人と家族、多職種で考える「選択制リハビリ」を実践。

チームの結束が高まる機会に

プロジェクトリーダー
理学療法士 原 萌美さん

リハビリ訓練にあたり、階段の段差上がりかまち、使用する洗濯グッズなど、施設にあるものでいかに復帰先のご自宅を再現できるか工夫を凝らしました。リハビリ意欲が高まるような声かけも意識しました。あらためて、ご本人が自宅で望む生活が送れるよう、多職種でできることを追求する必要性を実感するとともに、一度復帰しただけで満足せず、自宅での楽しみを増やすお手伝いもしたいですね。

介護フロア主任
後藤 慧さん

最初、介護フロアでは生活のなかはどうリハビリを取り入れていくのか悩みました。従来型で多くの入所者さんをケアするなかでの体制づくりには、パートさんの協力も必須でした。結果的に、職員一人ひとりの在宅復帰への意識が高まりましたし、多職種と議論を交わすことも増えました。今後も、より自宅に近い環境下での排泄ケアや歩行訓練に取り組みます。

支援相談員
根本 弘聖さん

去年からリピーターが減少したことを受け、本当にご本人やご家族が望む復帰後の生活の支援ができていたかを見直し、IADL(手段的日常生活動作)の重要性を再認識したことがこの取り組みのきっかけです。コロナ禍では、入所者さんの訓練動画をご家族にも見てもらい、在宅復帰への理解を広めています。特別な機械や人員がいなくても、日常の工夫で課題を解決できることも実感しました。

南十勝エリア部長
野村 常夫さん

当施設は、月に1度の部門ミーティングで常に3つの目標を立てて取り組む仕組みをつくっています。何かの目標に向かってそれぞれが努力する風土があったから、今回の取り組みにもつながったのだと考えています。コロナ禍で職員同士の交流が減ったのですが、みんなでリハビリに取り組むことでチームワークはより高まったと感じています！

「動き出しは本人から」の実践 ~ご家族様との時間を取り戻した事例A氏~

社会福祉法人旭川福祉事業会
老人保健施設サニーヒル
作業療法士 八重 愷修人さん



取り組みの概要

アルツハイマー型認知症により、介助抵抗が強く寝たきりになっていた入所者A氏に対し、「動き出しは本人から」を実践。多職種協同による生活場面での支援を通じて、ADLの向上や認知レベルの改善、家族とのコミュニケーション再開を可能にした取り組み。
※「動き出しは本人から」とは、本人の動き出しを意思として認め、尊重して関わる重要性を説く考えを提唱するもの

“思い込み”に気付かされた支援

—— 取り組みの経緯を教えてください。

上川地区の研修会で、大堀具視先生の「動き出しは本人から」の講義に衝撃を受けたことがきっかけです。アルツハイマー型認知症で全介助の入所者さんがいたのですが、「もしかしら改善できるかもしれない」と希望が湧き、作業療法士の先輩に相談したところ芦別の特別養護老人ホームで研修会を行っていることがわかり、参加させていただけることになりました。研修では、「動き出しは本人から」を実践している職員の方々や大堀先生からご指導をいただき、日々の支援に活かしました。

月半後には、車いすを指差して「起きるのかい?」といった意思疎通が見られたり、車いすを自走させながら壁にかかっている絵を見たり、花がキレイだとお話しすることもあり、効果を実感しました。一方で、ご本人様に対して“できないだろう”という思い込みから、本来の能力を見逃してしまっていた自分にも気付かされました。

目下の課題は、介護ミーティングで動画を流すなど多職種への理解を働きかけている一方で、やはりケアへの時間が割かれることは事実のため、もっと工夫が必要だと感じています。

—— 感触はいかがでしたか?

時間を決めたケアや反応が得られてからの関わりを意識しながら、ほぼすべての離床場面に介入するようになりました。開始から1か

—— 大会で発表した感想を教えてください。

この取り組みを形にしておきたいと、自ら手を挙げました。他の施設にも広まればうれしいですね。

誌上展示会

MAGAZINE EXHIBITION

担当者に聞きました



札幌支店プランナー 村田 菜さん
村田 将基さん

株式会社エラン

CSセットで職員の労力削減に貢献



老健で一番利用されているタオルプラン

手間も省けて感染対策にも有効

入所時に必要となるタオルや衣類、日用消耗品一式を日額定額制でレンタルいただけるサービス「CSセット」を提供する会社です。全国21拠点、約1760の老健をはじめとした介護施設・病院に導入いただいています。本サービスは、ご利用者様、ご家族様と当社で直接契約を結び、管理いただく施設様に業務委託手数料をお支払いする仕組みが特徴的。衣類を含む2つのプランと、タオル類のみを提供するプランの3つのプランがあります。ご家族にタオルの洗濯や日用品の補充を連絡する手間も省けますし、荷物の持ち込みがなくなることでご家族の労力もなくなるほか、感染対策としても有効です。何よりも、皆さんがケアに集中する時間の創出に貢献しています。

老健に知ってほしい 豆知識

未収金の徴収期間が延長に

どこの施設も未収金対策には苦勞されていると思われるのですが、2020年4月の民法改正により、消滅時効期間が3年から5年へと延長されたことで、回収にともなうさらなる労力やコストの増加が懸念されています。当社では、そのリスクを軽減するため介護費の立て替え払いをするサービス「CSセットR」も用意しています。さらに、入所中に施設の備品の破損などがあった場合に、最大100万円までを保障するプランもあります。いずれもお客様からの声から生まれたサービスです。施設、ご家族、弊社がWin-Win-Winの関係性を保てるよう努力します。



日用品はサービス品としてどれでも選ぶことができる

ココがおすすめ



在庫は常に2週間分を保管

ストレスがなくなってケアに専念

導入前までは、ご家族にタオルや歯ブラシといった日用品の補充をお願いする連絡は、介護職員にとって結構な負担になっていました。常に減り具合を気にしなければならないのも、ちょっとしたストレスに感じていました。それがなくなった今は、本当にケアに専念できています。またコロナ禍では面会制限をしていたことで、荷物の受け渡しも最小限にしたい事情があったのですが、ご家族の理解も得られて、今では入所者さんのほとんどが利用しています。実地指導の際に日用品費の説明で指導を受けることもなく、助かっています。



医療法人秀友会
介護老人保健施設愛里苑
介護長 入船 しのぶさん

DATA

株式会社エラン

- 札幌市白石区菊水7条2丁目7-1 札幌流通倉庫東ビル6F ● TEL: 011-833-1511
- URL: <https://www.kkelan.com>

ジャパンエレベーターサービス 北海道株式会社

担当者に
聞きました

代表取締役社長
瀬戸秀明さん

低コスト&非常時訓練で他社と差別化



満足度の高いメンテナンスサービスを提供



きめ細かな新人教育を受けたエンジニアが対応

あらゆる機種に対応するパーツと技術

普段、何気なく利用しているエレベーターですが、最も求められるのは安全第一であることです。当社は、安全性への強いこだわりと技術力、全国約74,500台の保守実績にもとづき、質の高いエレベーターのメンテナンス・リニューアルサービスを提供しています。メーカーにひもづくメンテナンス会社とは異なる独立したメンテナンス会社ですが、国内主要メーカーの部品をストックし、緊急トラブルの際の迅速な在庫体制を確立。さまざまな機種に対応できる高度な技術を有したスペシャリストもそろっています。

また、メンテナンスとリニューアル事業に特化することにより、適正価格のサービスを提供できる点も大きな強みです。

老健に知ってほしい 豆知識

エレベーターにも不可欠なBCP対策

地震などの災害によってエレベーターが止まり、閉じ込められてしまうケースがあります。そんなときは、24時間365日運行状況を把握する当グループのコントロールセンターにてリモート遠隔点検サービス「PRIME」が察知し、迅速に対応する体制を整備しています。また事業所のご担当者には、私たちがかけつけるまでの応急的な救出方法をお伝えする研修会も行っています。エレベーター内には、飲食品や携帯用充電器といった、もしものときに役立つグッズを収納できる非常用BOXを配備することも可能です。

老健のみなさんと同様、エレベーター業界もBCP対策は不可欠です。一緒に取り組んでいきませんか。



GPSによるエンジニアの所在把握や非常時の直接通話対応でサポート

ココがおすすめ



脱出訓練の様子

経費を3分の2まで削減できました

以前は大手メーカーのエレベーターだったため、そのままの流れでメンテナンスまでお願いしていました。ひょんなことから、当法人の月形緑苑がジャパンエレベーターサービスさんと取引することになったのですが、まず驚いたのはリーズナブルな価格。当施設は大きいエレベーターが1台のほか、配膳用とゴミ用が各1台あり、毎月のメンテナンス費用は結構な痛みだったのですが、同社に変更して費用が3分の2に削減できました。非常時の脱出訓練の提案もいただき、定期的に無料で実施していただいています。社員教育も徹底されていると見え、定期点検の際に、利用者さんに「使えなくて申し訳ありません」と声をかけていただく場面も多く、とても気持ちの良い対応です。



医療法人 讃生会
法人管理部門
統括部長 藤井徹也さん

DATA

ジャパンエレベーターサービス
北海道株式会社

- 札幌市豊平区水車町6丁目3-1 ● TEL: 011-818-8888
- URL: <https://www.jes24.co.jp>

東洋羽毛北部販売 株式会社

担当者に
聞きました



市場開拓担当 渡辺智之さん
札幌営業所 所長 藤田 武さん

快適な睡眠のサポートに尽力



第1次南極観測隊羽毛服レプリカ

高品質な羽毛ふとんづくり

東洋羽毛の創業者である横田春夫が、「羽毛寝具の普及を通して日本生活文化の向上をめざしたい」という使命感のもと、独自で製造工程を研究し、品質第一の「羽毛ふとん」製品化をすすめたことが当社のはじまりです。1950年に創業し、翌年には日本山岳会マナスル登山隊との共同研究により、エベレスト登山隊や当時の防衛庁に羽毛服やシュラフの納入を開始。その実績が認められ、南極観測隊に羽毛服を納入することになりました。現在も、南極観測隊のダウンジャケットに当社の羽毛が使用されています。

老健に知ってほしい 豆知識

昼寝をうまく使って体内をリセット

人生の3分の1は睡眠時間です。コロナ禍という新しい生活様式が求められる今だからこそ、良質な睡眠をとることは大切です。そのためには、体内時計を整えることが必要です。24時間より少し長い体内時計をリセットするには、朝の太陽の光を浴びることやバランスのよい朝食の摂取のほか、深く眠るための「睡眠圧」をためることも大事。朝から夜に向けてしっかり活動することで、それを高めることができます。

また、脳をリフレッシュさせ、活動を活発にさせるための昼寝は、15時までの20分以内が目安。夜勤明けで午前中に帰宅する場合も、本来はすぐに眠らないほうが望ましいです。午後は身体も活動的になる時間帯ですから、眠らないことで体内時計が乱れず、体調も崩しにくくなります。



世界の羽毛原料を厳選し、自社工場 で高品質な「HARUO DOWN」を生産しています

ココがおすすめ

通気性と保温性を両立する布団

子どもの成長には快適な睡眠が欠かせないと感じ、息子用に東洋羽毛さんの布団を使うようになりました。通気性が良くて夏は涼しい一方、保温力もあるので冬は暖かく、良い睡眠がとれているようです。また、睡眠にまつわる情報も提供いただけるため、夜勤で睡眠サイクルが狂いがちな当施設の職員にも啓発できてとても役立っています。コロナが落ち着けば、東洋羽毛さんによる出前型の職員研修会開催も考えたいですね。



社会福祉法人 栄和会
介護老人保健施設 あつべつ
副施設長 中川真奈美さん

DATA

東洋羽毛北部販売
株式会社

- 札幌営業所/札幌市白石区菊水元町8条2丁目2-1 ● TEL: 0120-383-863
- 旭川営業所/旭川市曙1条6丁目1-7 北友ビル1F ● TEL: 0120-983-863
- URL: <https://www.toyoumo.co.jp>

白十字株式会社 営業本部 北海道営業所



担当者に聞きました
ソ

所長 海老澤 孝さん
介護福祉士・ヘルスケアアドバイザー 工藤美保さん
主任 茂野彰太さん

安心・快適・簡単な排泄ケアを推進



安眠確保とスキンケアを重視

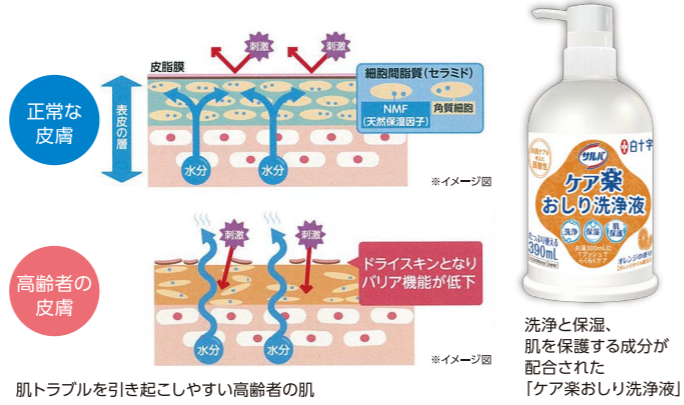
1896年に脱脂綿を開発したことにはじまり、ガーゼや包帯などの衛生材料から大人用紙おむつの研究・開発などに取り組んできました。当社が推奨する排泄ケアのポイントは、夜間のおむつ交換は極力実施せずに安眠を確保すること、健康的な肌を保つために1日1回のおしり洗浄を通じた予防的スキンケアを重視することです。大人用紙おむつ「サルバ」は、最大1800mlの尿を吸収し、モレも防止する特殊な構造を実現。肌を弱酸性に保つpHコントロールパルプの採用によって抗菌効果を発揮するとともに、おむつ内の菌の増殖も抑制します。排泄ケアに、安心・快適・簡単をお約束します。

朝まで1枚で強力吸収する「サルバ」

老健に知ってほしい豆知識

皮膚炎を予防するスキンケアが大事

高齢者はドライスキンの方が多いため、皮膚のバリア機能低下に陥るケースが多くあります。バリア機能が低下すると、尿や便中の刺激物質が皮膚に浸透してしまうため、失禁関連皮膚炎（IAD）発症のリスクが高まるのです。パッドだけを引っ張ったり、むやみに皮膚をこするのも、褥瘡につながる恐れがあります。そこで、すぎ不要にスキンケアができる「ケア楽おしり洗浄液」のようなおしり洗浄液の活用はとても効果的。正しい排泄ケアや紙おむつの使用方法をお伝える研修会も、対面やオンラインを通じて積極的に開催しています。今後も「おしり愛」の輪を広げていきます。



ココがおすすめ

肌荒れもなくコストも改善

白十字さんの紙おむつで肌がかぶれる利用者さんはいないですし、「便が漏れにくくなってオムツ交換がラクになった」という介護職もいます。まれに尿漏れが起きた場合は、ご相談すると、すぐに使用方法を教えてくださいましたし、別の試供品を提供していただくなど、とても助かっています。高機能な紙おむつで交換回数が削減されて、コストも改善されました。新商品が発売になった際は、試供品をお待ちしています！



社会医療法人道北勤労者医療協会
老人保健施設かたくりの郷
看護師長 加藤千鶴子さん

DATA

白十字株式会社
営業本部 北海道営業所

- 札幌市北区新琴似1条2丁目3-13 ● TEL:011-763-8910
- URL: https://www.hakujuji.co.jp

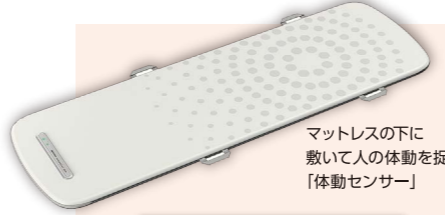
パラマウントベッド株式会社 札幌支店



担当者に聞きました
ソ

営業課長 戸村圭太さん

睡眠計測によるケアの質向上と労力の削減



「見守る」ベッドの開発を推進

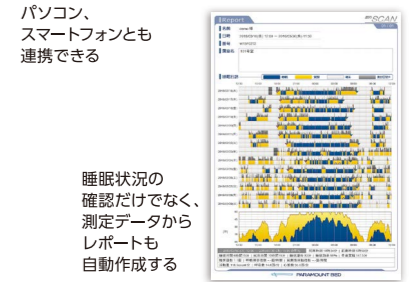
「as human, for human (人として、人のために)」を企業スローガンに、ベッドの製造・メンテナンスをはじめ福祉用具のレンタル卸事業を通じて、ケアを必要とする方や医療・介護に携わる皆さんに貢献したいと考えています。1947年の創業以来、日本人の体格に合わせたギャッチベッドや国産第1号となる電動ベッドを開発してきました。近年では、ベッドが「寝る」ものから「見守る」役割も果たせるよう、研究を重ねています。その1つが、2009年に開発した「体動センサー」です。マットレスの下に設置したセンサーにより、体動(寝返り、呼吸、脈拍など)を測定し、睡眠状態を把握。ケアプラン改善やスタッフの業務負担軽減、入所者様の生活習慣の改善をめざしています。



老健に知ってほしい豆知識

眠りを知ることが良いケアにつながる

当社は眠るための製品を開発する企業だからこそ、そのための専門部門を設け、睡眠に関する研究や情報発信に力を注いでいます。日本は5人に1人が不眠に悩んでいるといわれる不眠大国。高齢者にとっても睡眠の質の良し悪しは、日中に行うリハビリや生活活動に大きな影響を与えます。そこで当社で提唱するのが「睡眠計測」の必要性です。「当社の体動センサーを用いた見守り支援システム」の活用によって、入所者様の睡眠・覚醒・起き上がり・離床の把握と就寝時の「体動(呼吸・脈拍など)」を計測し、一人ひとりの状態にあわせたケアや見守りを実現。リアルタイムでスマートフォンに通知されることで不要な見守りが減り、職員の皆さまの労力削減も期待できます。



ココがおすすめ



iPadから入所者の様子をリアルタイムで確認

訪室回数が減って安眠も確保

2020年12月から100床すべてに「体動センサーを用いた見守り支援システム」を導入し、さらに10床に室内カメラを連携した「眠りSCAN eye」も設置しています。訪室回数が減って、入所者さんの安眠につながっているうえ、訪室回数も削減できて職員の負担が軽減。看取り支援においても、常時、状態を観察できるため安心感があります。ナースコールや介護ソフトと連携できるのもポイントで、情報が一元化できて効率的。導入をきっかけにWi-Fi環境を整備したとともに記録類はほぼ電子化を図り、施設としてICT化に前進できました。導入を考えている老健があれば、見学も可能ですので、遠慮なくご連絡ください！介護現場改革と一緒に取り組みましょう。

医療法人はるにれ
介護老人保健施設はるにれ



総務課 課長 西川 忍さん
施設サービス課 課長 天野将太さん

DATA

パラマウントベッド株式会社
札幌支店

- 札幌市中央区南2条西13丁目318-11 ● TEL:011-271-1181 (代)
- URL: https://www.paramount.co.jp

株式会社LEOC



第一地区統括 北海道第1事業統括 常務執行役員 堀川哲郎さん
北海道第2事業統括 岩見沢事業部 次長 菊地賢史さん

手作り科学的根拠にもとづく食事提供が強み



暮らし — L — Life
専門家 — E — Expert
もてなす — O — Offer
貢献 — C — Contribution

また、LEOCのロゴには、4つの意味が込められています。
①レオックが持つ無限大(∞)の可能性
②LEOCの頭文字「L」
③人と人のつながり=感性のつながり
④食サービスの象徴であるスプーンやレンゲ

食のみならず人材不足にも貢献

当社はオーダーメイド型の食事サービスを提供する会社です。調理師や栄養士を老健施設や病院などに配置し、各施設に合わせた献立作成に努めています。調理は、手作りを基本に統一献立や既製品をなるべく使用せず、各施設様やご利用者様の要望に細かく対応させていただくことがモットー。調理師の勤や経験だけに頼らない科学的根拠にも基づく「LEOC調理」で、おいしさを追求します。

一方、グループとしては、老健をはじめとした介護施設の人材不足解消のために、外国人介護人材紹介のサービスにも注力。すでに調理をまかせられるレベルまで成長している人材もあり、将来的には責任者を任せられるような人材の育成に取り組みます。

老健に知ってほしい豆知識

冬こそ注意したい水分不足

夏は、自然と意識する水分摂取ですが、寒くなると忘れがちです。でも空気が乾燥する冬こそ、暖房をつけることで乾燥が進んでしまうケースがあります。特に高齢者は水分が不足していても、喉の渇きを感じにくい方もいるため注意が必要です。脱水を起こすと、体内に取り入れた栄養素の運搬や不要になったものの排泄、体温調節などの機能が低下してしまう恐れがあります。そんなときにおすすめなのが、水分と栄養の補給が同時に出来る「アミノ酸配合ゼリー」です。100mlで100Kcalのエネルギーと、不足しがちな必須アミノ酸を豊富に含むうえ、離水しにくいゼリー状で飲みやすい商品です。ご利用者様が元気に過ごすための水分摂取にお使いください。



高齢者の水分補給に適したアミノ酸配合ゼリー

ココがおすすめ



11月に提供したおすしランチ

イベント食で利用者のQOLが向上

LEOCさんは、とにかく趣向を凝らしたイベント食が素晴らしいですね。当施設のレク委員会と管理栄養士、LEOCさんで毎月栄養会議を開催し、そこで積極的にご提案いただいています。これまで、北海道外のご当地食を味わう企画や鍋の会、お菓子会など実施してきましたが、普段は小食でお粥しか食べられなかったような利用者さんも、大喜びで召し上がり、QOLの向上につながっていると感じています。コロナ禍で、なかなかレクリエーションの機会も限られるなか、食の楽しさを提供できており、感謝しています。



医療法人 護生会 介護老人保健施設 浦河緑苑 事務部長 鈴木淳一さん

おすしランチの調理メンバー

DATA

株式会社LEOC

- 札幌市中央区北1条西4丁目2-2札幌ノースプラザ6階
- TEL: 011-200-2325
- URL: <https://www.leoc-j.com>

ワタキューセイモア株式会社 北海道支店

清潔・安心が保たれた寝具類を提供



集配車両を消毒する社員

ウイルスも徹底消毒で安全を担保

ワタキューセイモア株式会社は、1872年に、製綿業「綿屋の久七」として創業しました。その後、1962年に寝具と洗濯を一括して病院に提供するようになり、病院基準寝具業者となったことが、当グループの基礎となります。寝具リースを中心としながら、清掃業務や滅菌業務をはじめ、福祉用具のレンタル・販売、人材派遣といった、医療・福祉関連分野で多角的な事業を展開しています。

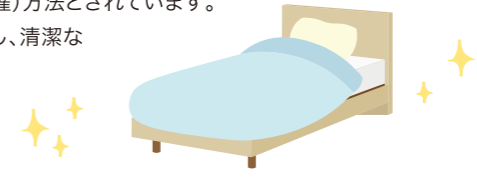
昨今のコロナ禍においては、ウイルス付着の疑いがある寝具を回収した場合、通常の寝具とは別作業で洗濯を実施。集配車両も毎日しっかり消毒し、清潔・安心を保っています。

老健に知ってほしい豆知識

法律で定められた消毒を徹底

老健施設や病院で使用いただいている寝具は、クリーニング業法で「指定洗濯物」と定義されています。これは、感染症を起こす病原体により汚染し、または汚染の恐れのあるものとして規定されている洗濯物を指し、「80℃以上の熱湯に10分以上浸すこと」が一般的な消毒(洗濯)方法とされています。

当社はこの洗濯方法を確実に実施し、清潔な寝具をお客様にお届けしています。



自社の洗濯工場にて洗濯・仕上げを実施

ココがおすすめ



清潔で気持ちの良い空間を保持

リネンは当施設の開設時から、カーテンのリースは10年ほど前から利用させていただいています。以前は、カーテンは買い取りだったのですが、洗濯もそう頻繁にはできないため、汚れが気になっていました。リースにしてからは、常に清潔で気持ちの良い空間を保つことができている。コロナ禍でも徹底した感染対策を行っているとのことなので、安心です。



社会福祉法人手稲オータス会 介護老人保健施設 手稲あんじゅ 入所部門長 黒畑 一哉さん

DATA

ワタキューセイモア株式会社 北海道支店

- 小樽市新光5丁目13-3
- TEL: 0134-54-6525
- URL: <https://www.watakyu.co.jp>

TOPICS 1

ポストコロナに向かって ウェルビーイングを取り戻そう

当協議会は、2021年10月3日、昨年に引き続き塚本容子氏（北海道医療大学看護福祉学部教授）を講師に迎え、「老健における新型コロナウイルス感染症対策」をテーマにオンラインによるリーダー研修を開催しました。

塚本氏はまず、新型コロナウイルス感染症をインフルエンザと同様、「ある程度ワクチンでコントロール可能なもの」と定義。そのうえで、「感染予防できても高齢者のADLの低下や認知症の進行、社会的交流機会がなくなることで幸せが奪われてしまっただけでは意味がない。ポストコロナに向かってウェルビーイングを取り戻していかなくてはならない」とし、多くの老健や病院で続く面会制限をはじめとした感染対策の見直しなどを提起しました。

感染予防としては、多くのクラスター施設への支援の経験か



視聴者とチャットを通じて交流を図る塚本氏

ら、洗面所の共有の危険性を指摘し、使用の度の消毒の必要性を強調したほか、トイレの換気、飲食店でのマスク装着や2時間以内の滞在時間を守るということといった具体的な対策についても紹介。「数値上では感染者が減少しているように見えるが、ワクチン接種が推進されて感染しても症状が出る人が減っただけ。引き続き適切な感染対策を続けてほしい」と呼びかけました。

また、有効な感染対策としては、免疫機能を高めるための運動と前向きな気持ちを持つことの有効性を挙げ、「運動すればリスクは3分の1に減ることはわかっており、いかに運動で免疫を高められるかがカギとなる。意識的に前向きな感情を持つ努力も大事」と指摘。

最後は、藤井徹也研修担当を交え、視聴者と面会制限についてチャット上で活発な意見交換を行いました。

TOPICS 2

2021年度北海道社会貢献賞受賞者決定！



西田 聖さん

医療法人 聾生会
介護老人保健施設浦河緑苑
施設長



入所者さんの転倒・転落骨折事故ゼロを目指して

浦河赤十字病院での内科医・産業医としての生活36年間で、2006年4月に当施設に赴任し、早15年になります。当施設は日高管内唯一の老健施設で、職員一同一丸となって使命感に燃えて張り切って働いています。目標の入所者さんの転倒・転落骨折事故ゼロは、いまだ達成していませんが、今回の新型コロナウイルスは、利用者さん、職員ともに感染者ゼロでした。四方をサラブレットの牧場に囲まれた当施設は、明るい未来を想像させる格好の環境と自負しています。この度の表彰は身に余る光栄と存じます。どうもありがとうございました。



齋藤千里さん

医療法人社団創成
老人保健施設グリーンライフ
ケアマネジャー



入所者の皆さまの笑顔を守る支援を

1990年にグリーンライフ開設準備室に入職し、支援相談員として勤務。その後、2002年3月にケアマネジャー資格を取得し、その後はケアマネジャーとして勤務しています。常に入所者の皆さまが笑顔で生活出来ることを意識し、日々接しています。今後も、新型コロナウイルス感染症予防でご家族に面会できず、不安な日々を過ごされている皆さまの不安を少しでも解消出来るよう支援していきたくと思っています。



今川三香さん

医療法人 徳洲会
介護老人保健施設徳洲苑なえぼ
介護福祉士



元気に仕事出来ることの喜び

徳洲苑なえぼに1999年に入職、ヘルパーから介護福祉士の資格を取り、23年の月日が流れてしまいました。最初は知識も少なく、施設での研修会や勉強会等に参加した貴重な経験が、自分自身の成長につながり、不安なく仕事を続けることが出来ました。介護で気を付けていることは、介護職だから出来る利用者様の表情・動作など小さな気付きを見逃すことのないよう安全に楽しく過ごせるよう心がけてきました。長く続けられたのは、健康なこと、職場の雰囲気が良かったこと、この仕事が好きだったことです。ありがとうございました。



志村健治さん

社会福祉法人 湊仁会
介護老人保健施設コミュニティホーム八雲
介護福祉士



超強化型に貢献できることに感謝

私は八雲町で生まれ育ちました。進学と就職で一時離れていましたが、八雲町で老健職員の募集を知り、育った町で介護福祉士として役に立ちたいという思いから、1998年に開設スタッフとして入社しました。以来、20年以上にわたり、入所者様のお世話をいたしながら、楽しい毎日を過ごしています。また、当施設は町内唯一の老健でもあり、超強化型として存在しています。在宅復帰に関する高い指標を維持するのは大変ですが、そのスタッフの一員として関わっていることに感謝の気持ちでいっぱいです。